

## 漢字とかなとハングル<4>

—漢字をつかわない日本語をつくりだすために—

く『むくげ通信』296号 2019.9.29より> 近藤富男

### (8) 子音+母音丌の漢字

【原則】53例あり、基本音は「ユ」または「ユウ」である。

- 1 「有無」の「有 (ウ)」 ..... 漢音・常用音が「ユウ」
- 2 「由緒」の「由 (ユイ)」 ..... 基本音は「ユ」「ユウ」
- 3 「幼稚」の「幼 (ヨウ)」 ..... 呉音、漢音ともに「ユウ (イウ)」
- 4 「淨瑠璃」の「瑠 (ル)」 ..... 漢音が「リュウ (リウ)」
- 5 「留守」の「留 (ル)」 ..... 漢音が「リュウ (リウ)」
- 6 「流転」の「流 (ル)」 ..... 漢音が「リュウ (リウ)」
- 7 「遺産」の「遺 (イ)」 ..... 呉音が「ユイ」
- 8 「思惟」の「惟 (イ) (ユイ)」 ..... 呉音が「ユイ」
- 9 「維新」の「維 (イ)」 ..... 呉音が「ユイ」
- 10 「唯々諾々」の「唯 (イ)」 ..... 呉音が「ユイ」
- 11 「規則」の「規 (キ)」 ..... 呉音、漢音ともに「キ」
- 12 「絶叫」の「叫 (キョウ)」 ..... 呉音、漢音ともに「キョウ (ケウ)」
- 13 「圭復」の「圭 (ケイ)」 ..... 呉音「ケ (クエ)」、漢音「ケイ (クエイ)」
- 14 「奎運」の「奎 (ケイ)」 ..... 呉音「ケ (クエ)」、漢音「ケイ (クエイ)」
- 15 「携帯」の「携 (ケイ)」 ..... 呉音「エ (エ)」、漢音「ケイ (クエイ)」
- 16 「遺言」の「遺 (ユイ)」
- 17 「唯一」の「唯 (ユイ)」
- 18 「類似」の「類 (ルイ)」

■ 7～18については「ユ」「ユウ」の音がなく、原則にあっていない。

### (9) 子音+母音丨の漢字

【原則】151例あり、基本の音は「イ段」である。

- 1 「自己」の「己 (コ)」 ..... 常読音、漢音が「キ」
  - 2 「匪碭」の「碭 (ゴ)」 ..... 呉音「ギ」、漢音「キ」
  - 3 「最期」の「期 (ゴ)」 ..... 常読音、漢音ともに「キ」
  - 4 「施工」の「施 (セ)」 ..... 常読音「シ」、吳音「イ」、漢音「シ」
  - 5 「是非」の「是 (ゼ)」 ..... 漢音が「シ」
  - 6 「泥炭」の「泥 (デイ)」 ..... 呉音「ナイ」、漢音「デイ」
- 「デイ」は单音「ディ」が重音化したものか。

7 「米国」の「米 (ペイ)」 ..... 呉音「マイ」、漢音「ペイ」

8 「新米」の「米 (マイ)」 ..... 呉音「マイ」、漢音「ペイ」

9 「迷路」の「迷 (メイ)」 ..... 呉音「マイ」、漢音「ペイ」

10 「謎語 (メイゴ)」の「謎 (メイ)」 ..... 呉音「マイ」、漢音「ペイ」

■ 7～10については单音節の「イ段音」がなく、直接は原則にあてはまらない。

### (10) 子音+母音丌の漢字【表 16】

【原則】42例中、つぎの2～5の例以外すべて漢音が「エ段音+イ」の音である。

- 1 「薬剤」の「剤 (ザイ)」 ..... 呉音「ザイ／スイ」、漢音「セイ／スイ」
- 2 「切断」の「切 (セツ)」 ..... 呉音「セチ」、漢音「セツ」
- 3 「諸君」の「諸 (ショ)」 ..... 呉音、漢音ともに「ショ」
- 4 「掃除」の「除 (ジ)」 ..... 呉音「ジョ (ヂョ)」、漢音「チヨ」、慣用音「ジ (ヂ)」
- 5 「排除」の「除 (ジョ)」 ..... 呉音「ジョ (ヂョ)」、漢音「チヨ」、慣用音「ジ (ヂ)」

■ 「丌」は「ト」と「」をあわせた音である。日本語音でもなんとかこの音をかなで表記しようとした結果が「エ段音+イ」だったのではないか。

### (11) 子音+母音丨の漢字

【原則】113例中、つぎの5例以外すべて吳音または漢音に「ア段音+イ」の音がある。

- 1 「箇所」の「箇 (カ)」 ..... 呉音、漢音が「カ」、唐音が「コ」
- 2 「個性」の「個 (コ)」 ..... 呉音、漢音が「カ」、唐音が「コ」
- 3 「国璽」の「璽 (ジ)」 ..... 呉音、漢音「シ」、慣用音「ジ」
- 4 「下駄」の「駄 (タ)」 ..... 呉音「ダ」、漢音「タ」
- 5 「無駄」の「駄 (ダ)」 ..... 呉音「ダ」、漢音「タ」
- 6 「魅力」の「魅 (ミ)」 ..... 呉音「ミ」、漢音「ビ」

■ 「丌」は「ト」と「」をあわせた音である。日本語音「ア段音+イ」は、この音をかなで表記しようとしたものとかんがえられる。

■ 日本語音でも「ア段音+イ」が「丌 (エ)」になっているものがわずかながらある。これまで、「愛媛 (エヒメ)」「愛知川 (エチガワ)」の「愛 (エ)」のみだとおもっていたが、2018年にもう一例みつけた。NHK 大河ドラマの「西郷 (セゴ) どん」の「西 (セ)」がそれである。

## (12) 子音+母音ヰの漢字

【原則】5例あり、ハングルではすべてヰである。

- 1 「潰瘍」の「潰 (カイ)」 ..... 吳音「エ」、漢音「クワイ」
- 2 「机上」の「机 (キ)」 ..... 吳音、漢音ともに「キ」
- 「机」以外は「ワ」「ヰ」「エ」をふくみ、かつては重母音であったことをものがたる。

ている。

2 「医者」の「医」 ..... 吳音「イ／アイ」、漢音「イ／エイ」

3 「戯曲」の「戯」 ..... 吳音「ケ／キ (ヰ)／ク」、漢音「キ／ヰ／ (ヰ)／コ」

■この3例をのぞいた17例が、日本語音では短母音で表記されるが、ハングルの「ヰ」も、重母音として発音されない場合がおく、ここにも日本語音との共通性をかんじるところである。

## (13) 子音+母音ヰの漢字

【原則】29例あり、つぎの4例以外、吳音には一部「ヰ」音もあるが、漢音はすべて「ワ」音である。

■これも本来重母音であったことをものがたるものである。

- 1 「補佐」の「佐 (サ)」 ..... 吳音、漢音ともに「サ」
- 2 「左右」の「左 (サ)」 ..... 吴音、漢音ともに「サ」
- 3 「安坐」の「坐 (ザ)」 ..... 吴音「ザ」、漢音「サ」
- 4 「座席」の「座 (ザ)」 ..... 吴音「ザ」、漢音「サ」

## (16) 子音+母音ヰの漢字

【原則】38例あり、そのおおくはワ行音のワ、ヰ、ヰの音をもつことから、このグループも本来重母音の音であったことがわかる。

■カイ、サイ、タイ、ライの音のものがあるが、これも表記するかなをもたなかつたゆえに工夫して表記した重母音のなごりであろう。

■上記にあてはまらないものはつぎの4例のみ。

1 「褪衣 (トンイ)」の「褪 (トン)」 ..... 吴音、漢音ともに「トン」慣用音は「タイ」

2 「煩惱」の「惱 (ノウ)」 ..... 吴音「ノウ (ナウ)」、漢音「ドウ (ダウ)」

3 「頭脳」の「脳 (ノウ)」 ..... 吴音「ノウ (ナウ)」、漢音「ドウ (ダウ)」

4 「賄賂」の「賂 (ロ)」 ..... 吴音「ル」、漢音「ロ」

■このうち、「ノウ (ナウ)」、「ドウ (ダウ)」も、重母音の痕跡をのこしているようだ。

## (17) 子音+母音ヰの漢字

【原則】34例中23例が吳音、漢音に「ヰ」または「ヰ」の重母音をもっている。

■「吹」、「炊」、「翠」、「醉」は、吳音、漢音ともに「スイ」で、これも本来「ウイ」の重母音をもっていたのではないかとかんがえられる。

1 「毅然」の「毅 (キ)」 ..... 吴音「ゲ」、漢音「ギ」、慣用音「キ」

2 「取得」の「取 (シユ)」 ..... 吴音「ス」、漢音「シユ」

3 「趣味」の「趣 (シユ)」 ..... 吴音「ス／ソク」、漢音「シユ／ショク」

4 「就職」の「就 (シユウ)」 ..... 吴音「ジュ」、漢音「シユウ (シウ)」

5 「無臭」の「臭 (シユウ)」 ..... 吴音「シユ／ク」、漢音「シユウ (シウ)／キユウ (キウ)」

6 「成就」の「就 (ジュ)」 ..... 吴音「ジュ」、漢音「シユウ

## (15) 子音+母音ヰの漢字

【原則】20例あり、「凝」をのぞいてすべて「イ段音」である。

- 1 「凝固」の「凝 (ギョウ)」 ..... 吴音、漢音ともに「ギョウ」  
なお、つぎの2例には、吳音、漢音に重母音の痕跡をのこし

(シウ)」

■「シュ」「シュウ」は重母音をあらわそうとしたものの可能性がある。そうだとするなら、あきらかに原則にはずれているのは「毅(キ)」のみということになる。

### 3 かんがえたこと

■漢字の歴史的かなづかいをしらべてみると、日本語音は現代よりもはるかにゆたかな音をもっていたことがみえてくる。歴史的かなづかいを表記すれば同音異義語がすくなくなることが期待できる。ために、現代もちいられている漢語をいくつか、ハングルと歴史的かなづかいをかきあらわしてみた。コリア語で熟語としてもちいられているかどうかはべつとして、単純に漢字をハングルに変換した。(カタカナはハングルの音を便宜的にあらわしたもの)  
■そのまえに、ハングルの構造についてひとつふれておかねばならない。ハングルの文字はつぎのような構成でなりたっている。

#### A 開音節の文字

子	母	ガ
音	音	ka

#### B 閉音節の文字

子	母	간
音	音	ka
子 音		n

(このような表記法をとりいれた結果、ハングルではすべての漢字を一文字でかくことができ、この点もコリア語が漢字をつかわなくてもこまらないひとつの理由となっている。)

■では、「こうじょう」「こうせい」「かいほう」のみつの例についてみてみよう。

#### 【こうじょう】

- 向上 かうじやう 향상 ヒヤンサン
- 交情 かうじやう 교정 キョジョン
- 厚情 こうじやう 후정 フジョン
- 恒常 こうじやう 항상 ハンサン
- 攻城 こうじやう 공성 コンソン
- 口上 こうじやう 구상 クサン
- 工場 こうぢやう 공장 コンジャン
- 荒城 くわうじやう 황성 ファンソン
- 甲状 かふじやう 갑상 カフサン

#### 【こうせい】

- 公正 こうせい 공정 コンジョン
- 厚生 こうせい 후생 フセン
- 構成 こうせい 구성 クソン
- 攻勢 こうせい 공세 コンセ
- 後世 こうせい 후세 フセ
- 恒星 こうせい 항성 ハンソン
- 後生 こうせい 후생 フセン
- 更生 かうせい 갱생 キョンセン
- 校正 かうせい 교정 キョジョン

#### 【かいほう】

- 開放 かいはう 개방 ケバン
- 解放 かいはう 해방 헤バン
- 介抱 かいほう 개포 ケボ
- 快方 くわいはう쾌방 クエバン
- 回報 くわいほう 회보 フエボ
- 会報 くわいほう 회보 フエボ
- 解法 かいはふ 해법 헤ボフ

■これからつぎのようなことがみてとれる。9個あった「こうじょう」は、歴史的かなづかいであらわすと1~2、3~6、7、8、9の5種類の音にわかれ、同音異義語がすくなくなる。が、おなじく9個あった「こうせい」は1~7、8~9の2種類とはなるが、「こうじょう」ほどではない。7個あった「かいほう」は1~2、3、4、5~6、7の5種類となって、同音異義語はかなりすくなくなる。漢語を歴史的かなづかいを表記すればある程度同音異義語をへらすことができるということである。

■ところが、ハングルを見ると「こうじょう」にはおなじ発音になるものが多く、「こうせい」も「厚生」と「後生」がおなじになるだけでほかはすべて発音がことなる。「かいほう」も「回報」と「会報」がおなじなだけでほかはすべてことなる。

■このことは、コリア語においても同音異義語がまったくないわけではないが、日本語とくらべてはるかにすくないことをしめしている。これが、朝鮮においても韓国においても漢字をつかわないでいるおおきな理由のひとつであろう。

■「日本語音」で同音異義語がおおくうまれてしまった背景には「かな」のちからの限界がある。本来、漢字はすべて一音節であるが、現在のこっている「か

な」には重母音を表す文字が「ワ」「ヰ」「ヱ」「ヲ」以外になかったことで、たとえばハングルの ㅏ (ア + イ) にあたる音を「アイ」と二文字で表記するほかなかった。当初は「アイ」とかいて「ア+イ」の音をあらわし、それにちかい音を発していたのであろうが、しだいにこれが重母音であることをわすれ、そのまま「アイ」と発するようになったのではないかとかんがえている。

■また、「ワ」「ヰ」「ヱ」「ヲ」にしても、「かな」はこれ以上文字を分解しようがなく、したがって歴史とともに単母音化せざるをえなかつた。これに対してハングルは「ㅏ (オ) + ㅓ (ア) → ㅗ (ワ)」「ㅜ (ウ) + ㅓ (イ) → ㅕ (ヰ)」「ㅡ (オ) + ㅓ (エ) → ㅕ (ヱ)」「ㅜ (ウ) + ㅓ (オ) → ㅕ (ヲ)」と、それぞれが複数の母音をあわせてつくつた音であることを文字自身があらわしているので、その文字のあらわす音は重母音であるということをわすれようがないのである。

■一音節の漢字音が日本語では二音節になってしまったのは、閉音節の音をもつてゐた漢字についても同様である。はじめは「○ k」を「○ク」と表記して「○ k」と発音していたのが、次第に文字にひきずられて「○ク」と発音するようになり、また、かつては「○ン」「○ウ」「○ム」とかいて「○ n」「○ ng」「○ m」と発音していたものを、いつのころからか、これら三つの音のちがいを意識しないまま、すべて「○ン」と表記し、あとにつづく音につられるかたちで三種にわけて発音するようになった。「見当をつける (けんとう)」の「ん」は「n」、「漫画をよむ (まんが)」の「ん」は「ng」、「心配する (しんぱい)」の「ん」は「m」と、自分がことなる音を発していることさえ気づいていない。あとにつづく音にひきずられて、自然に、おなじひとつの「ん」を、「n」「ng」「m」と、三種類のことなる音で発しているのである。ハングルには「n」「ng」「m」をあらわすべつの文字「ㄴ」「ㅇ」「ㅁ」がある。

■このようにして、日本語のなかでは、本来一音節であった漢字の発音はそのおおくが2音節に変化してしまい、重母音は単母音になり、結果、同音異義語が多数できてしまったのである。

■じつは、コリア語は漢字をつかわないといいながら、漢語（コリアでは漢字語）は日本語以上におおくつかっている。いくつか例をあげてみる。

あきらめる…放棄する…보기하다  
ことわる…拒絶する…고절하다  
たのむ…付託する…부탁하다  
おちついている…沈着している…침착하다  
じやます…妨害する…방해하다

■日本語においては、つねは「あきらめる」「ことわる」「たのむ」「おちついている」「じやます」をつかい、「放棄する」「拒絶する」「附託する」「沈着」「妨害する」は文章中でつかうか、あるいは、語気をつよめていう場合につかう。これらについてコリア語では「漢語+する」をつかうのがつねである。

■日本語がおおくの音をうしなってきたのは、漢字がはいってきたあと比較的はやいうちに「かな」をつくりだしたことにその原因があるとかんがえる。漢字のもつてゐたゆたかな音を「かな」はかきあらわすことができなかつたのである。あるいは、もともと日本語は開音節の音のみでなりたつており、重母音をつかうことのすくないことばであったから、当時から日本語をかきあらわす「かな」はこれらの音をあらわすことをもとめられなかつたということか。

■同時に、日本語ははやくに「かな」を手にした結果、比較的おおくの和語を「かな」でかきのこすことができたのであろう。

■これに反して、コリアではコリア固有のことばをかきあらわす文字が15世紀までうまれなかつた。このためコリアでは、かくことばとしては漢文、つまり古代中国語がながいあいだつかわれることになり、それゆえ、漢語のすなわち漢字の中国音がながいあいだたもたれてきたのである。そして、15世紀になって、漢字語をふくめて当時コリアにあった音をすべて、正確にかきあらわすことのできる文字として、科学的・合理的にかんがえてつくりだされたハングルは、漢字のもつてゐる音をほぼ忠実に再現できたのである。

■そのかわりといふべきか、ハングルができたときには、かつて、そのとき以上にゆたかにあった固有語（日本でいう和語）は歴史のなかでそのおおくが漢字語におきかえられてしまつたということであろう。

＜つぎは最終、一応の結論「まとめ」＞